

第六回 郷土史研究会要項 (八月二十五日)

◎ 題目 おつぼ山神籠石 (最初にビデオ視聴)

① 神籠石の構造について

① おつぼ山の数個の小山を列石と土手が取りかこみ、列石の途中に門ニヶ所

水門ニヶ所、峰と峰の合間には土壘がつながっている (水門は排水口)

② 築造の目的

③ 神城説と山城説

④ おつぼ山神籠石の発見 …… 昭和三十七年 江口医師

⑤ 全 発掘調査 …… 昭和三十八年 武雄市 (九大鏡山教授指導)

⑥ 神籠石は山城説が正しいと結論

○ 理由・築造当時の木柱痕出土 …… 敵の侵入を防ぐやぐらの存在確認

⑦ 築造年代

① 木柱の間隔等 …… 唐尺が使われている (日本の唐尺使用 紀元六三三〜数千年

② その頃の歴史上の出来事

○ 大化三年 …… 白村江 (韓国) の敗戦

日本と百濟 (くだら)

白村江で戦い日本側敗れる

唐と新羅 (しらぎ)

(唐、新羅が日本に攻撃する恐れ?)

⑧ 日本の対応 (国防の強化)

○ 基肆城、大野城、水城の構築 ○ 各地方に神籠石を築く

○ 神籠石の役目

△ 敵の攻撃手を考 防衛拠点とする

※ おつぼ山神籠石の利用

① 武器食糧を用意し 兵を待機させる 杵島山の見張所から敵の侵入

が通報されると 兵士に 武器食糧を拵らせ 攻撃に急行

② 橋平野の住民を收容し 保護する

(橋平野は縮作も盛んで 住民も多かつた)

(四) 神籠石の築造 (高度の石工技術と強い石ノミ)

川百濟からの渡来民 (敗戦による日本渡来) の技術と用具

。有明町稲佐神社には百濟の聖明王外の祭神が祭られている

(2) 採石場所 杵島山の立岩から採石 加工し麓へころけ落とした

因おつぼ山の史跡

(1) 釵山神社 (おつぼ山には鎮西八郎為朝が城を築いたとされる

。為朝は粗暴な行いにより九州下流罪になったが各地で人々を従之

城主として生活していた。おつぼ山の頂上にも城を築いた (城口と云う地名)

。来と弓の名手でやぶさめにすぐれていた。

草場の地名 (馬の牧草地になっていたところ)

。上野の「守殿」(地域の名) ↓奥様の住んでいた家があった所

(3) 鎮西八郎為朝は京都に帰る時、原区民へのお礼に釵を

おくれた。これは部落の宝物として保存していたが年ふりて破損が

進んだので明治三十三年おつぼ山の聖地に埋め、そこを釵山神社として

お祭りした (公民館裏から登る約50m)

付近は聖地で釵山神社のすぐ横から中世の銅の経筒が出土した

。これを経筒と呼んでいる

経筒は中世の頃埋められたもので末世になる佛教も衰え、経文

もなくなるとあろう。それまで、経文を保存し佛教の再興を祈った

ものである。

(2) 八郎社 (山崎さんの裏山) おつぼの最高の峰に祭る)

。祭神 鎮西八郎為朝を祭る

九月一日の夏祭り

(以上)